

平成27年8月11日

小野市議会議長
前田光教 様

市民クラブ
幹事長 岡嶋正昭

行政視察報告書

先般実施しました、市民クラブ・公明党の 会派行政視察について、下記の通り報告いたします。

記

1 視察実施日 平成27年7月27日（月）～平成27年7月28日（火）

2 視察メンバー

久後 淳司	平田 真実	高坂 純子	小林 千津子
前田 光教	山中 修己	岡嶋正昭	(市民クラブ)
川名 善三	竹内 修	(公明党)	以上9名

3 視察先及び調査内容



(1) 沖縄県糸満市
(人口約5万9千人、
面積46.64K^m²
財政力指数 0.43
将来負担比率 86.0%)
糸満市子育て施策について

(2) 沖縄県名護市
(人口約29万5千人、
面積886.47K^m²
財政力指数 0.40
将来負担比率 23.4%)
なごアグリパークについて

4 調査内容

【第1日】

沖縄県糸満市 (現在の人口約6万人を増加傾向にある)

《視察内容》

子育て支援センター「ぬくぬく」

- ・ 私立保育所（座波保育所）に併設。 平成15年5月開設
 - ・ 職員 5人 平成25年度予算1,615万円
 - *安心子ども基金事業（子育て支援交付金からの移行事業）
 - *平成26年度は、「保育緊急確保事業」により実施。
 - ・ 主な活動内容
 - 育児相談事業 子育ての悩みや不安軽減を図る
 - 訪問事業 家庭を訪問し、不安の解消や乳幼児の実態把握に努める
 - 育児講座 育児に関する講座や、保護者のリフレッシュを目的とした講座を定期的開催。
- 保育交流・保育体験・子育て広場・一時預かり事業等の事業の展開。

子育て広場「ぽかぽか」

糸満市福祉プラザ「すこやか館」内に設置。 平成24年度より事業実施。
平成25年度約600万円
活動内容は、「ぬくぬく」と同様な事業を実施。

○糸満市子育て支援センターの状況

糸満市の出生指数 1.99

平成25歳～29歳の女性が減少へ

0～5歳児 ⇒ 平成30年から減少傾向に

就学前児童の内80%が施設（幼稚園等）に入所

（認定保育園 45%、認可外 8.1%、）

待機児童が約10% → ・子育て支援センター 2か所増設予定
・幼保連携型保育園 増設予定

《所 感》

糸満市は、那覇市のベットタウン的な位置にあり、新たに県外の方々の移住（旧来の土地ではなく、埋立地が多く開発され新しい街が築かれている。）も多く、人口も微増を続けている状況にあるようです。

若い世帯も多く、当然子どもも多く出生率は1.99で、人口増に子育てのための施設（保育所等）が間に合っていない。しかし平成30年頃には就学前児童の減少が始まるようですし、人口の増加から、減少への対策が非常に大変な状況にあります。幸い全小学校に併設した幼稚園が完備されておるため、これらの施設を活用し「幼保が連携した施設」を第一に取り組まれています。

小野市では、待機児童はありませんが、市内14園の保育所の規模の大小が顕著にな

ってきており、小学校の統廃合も踏まえて、幼・保・小が連携した幼児教育を考えなければならぬようになってきている。

【第2日】

沖縄県名護市

《視察内容》

「なごアグリパーク」における取組みについて

- ・名護市農産物6次産業化支援拠点施設整備事業



○視察会場：「名護アグリパーク」中央多目的スペース

当施設は、6次産業化を目指す農家などが加工品を開発し、試作品を作ることが出来る加工研究室と6次産業化に取り組んでいる事業者が入居するインキュベーター室です。今後は、平成27年4月オープン

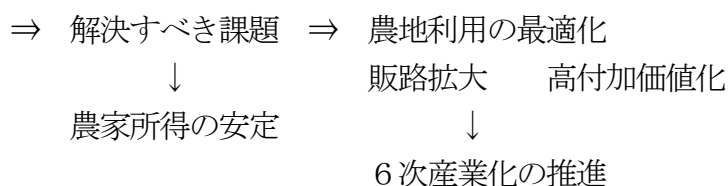
の「アグリショップ しまちゅらら」に続き、平成28年度にはレストランと観光農園が新たに完成し、「健康、美容、長寿」をテーマとした複合施設としてオープンする予定。

《名護アグリパークの背景》

① 名護市農業の課題

- ・農業粗生産額 92億円（1990年）
58億円（2010年）に減少。

農家所得の低下に伴う農家の大幅な減少



② 6次産業化への機運

- ・スイーツコンテストの開催

助成市民団体が主催

名護市の新たな特産品を生み出すために開催

- ・「おでかけ市長室」における市民との意見交換会

- ・名護市初の「総合化事業計画」認定者の誕生

農水省より名護市初の団体(クックソニア)が誕生

⇒ 名護市における6次産業化への機運は高まり、意欲ある農林漁業者への支援が必要であった。

③ 一括交付金の活用

平成24年度より沖縄振興特別推進交付金(一括交付金)が開始。

沖縄県 500億円 市町村 303億円 内、名護市へ約11億円

⇒なごアグリパーク事業費へ

*平成24年度 : 約6.9億円

- 加工支援施設の建設
- 通路、駐車場等の整備

*平成25年度 : 約4.6億円

- ショップ・トイレ施設の建設

*平成26年度 : 約4.5億円

- レストラン施設、観光農園施設の建設 ⇒ **総額 約16億円**

《所 感》

名護市の農業粗生産額が、過去20年間で3分の2にまで減少。原因として、時代背景・販路・農地・労働力・農業規模・栽培土壌・単収等悪いイメージが強い。これらを解決すべく「農地利用の最適化、販路拡大、高付加価値化」をめざし6次産業化の推進へと展開されている。

この様な状況下であり、市民からの強い希望があり、「沖縄振興特別推進交付金」の活用もあり一気に6次産業化へと事業展開となった。施設の整備途中であり、商品開発へこれからが正念場のようなようです。施設が完成し商品開発等軌道にのるまでまだ少し時間が必要な様です。

小野市においても6次産業化への取組みが多方面においても取組ますが一朝一夕には大変難しい取組みです。この度の名護市の取組みも参考に小野市での独自の取組みを考える機会にもなりました。

平成27年8月7日

小野市議会議長 前田 光教様

市民クラブ
山中 修己

行政視察報告書

先般、実施しました 公明党・市民クラブ合同会派行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成27年7月27日（月）～平成27年7月28日（火）

2 視察メンバー

竹内修議員、川名善三議員（以上公明党）、平田真実議員、久後淳司議員、前田光教議員、小林千津子議員、高坂純子議員、岡嶋正昭議員、山中修己以上9名

3 視察先及び調査内容

(1) 沖縄県糸満市（人口：約6万人、面積：46.64Km²）

「子育て支援センターぬくぬく」について

(2) 沖縄県名護市（人口：約6万2千人、面積：210.38Km²）

「なごアグリパーク」について

4 調査結果

【第1日】

沖縄県糸満市

人口：約6万人、面積：46.64Km²

≪視察項目≫

「子育て支援センターぬくぬく」について

《視察内容》

面接者：市議会事務局 新垣善孝局長、議事係 赤嶺優介氏
福祉児童家庭課 金城満課長、児童家庭係 宮里一樹係長

糸満市は沖縄本島最南端に位置する市で、那覇空港から約30分で市役所に到着する。市役所庁舎は近代的な建物で総工費50数億円、14年前に建築された。なお、ご多分にもれず、38億円は補助金とのこと。因みに、一般予算244億円の内、自主財源は62億円、他は地方交付税、国庫支出金、県支出金等で約3分の2が占められているという、羨ましい限りの予算である。

さて、本題の子育て支援に入る。



1. 糸満市の子育てに関する状況

- 現在の出生率は1.99とのもので、人口は約6万人で微増している。因みに出生率は大変優秀で、沖縄県内の市は全国20位内に半分位入っている。
- 公立小学校10校、公立幼稚園10園(小学校に併設)、私立幼稚園2園、認可保育所20園あるが、待機児童が多く、子育て支援サービスへのニーズが高い。
- 子育て環境も変化してきており、共働き家族は約75%あり、しかも最近奥さんが地域外からの人が多い。

2. 「子育て支援センターぬくぬく」について

- 「子育て支援センターぬくぬく」は直営であり、他にNPOに委託している子育て広場「ぽかぽか」がある。今年中にこれらは増設する予定である。
- 職員は5名で内訳は正職員1名、臨時保育士2名、子育て支援員2名である。
- 利用者は市外の方も無料で、出張広場と称して、公民館、市役所庁舎等への出張サービスも行っている。働くお母さんに対して、子どもの一時預かりなども行っている。

《所 感》



糸満市は小野市と違い、出生率が高く、就学前の子育て支援のニーズが非常に高い。

平成30年までは今の状態が続くそうで、保育園なども増設予定とのことである。小野市の環境とは違いがあるが、子育て世代のニーズは多様化してきており、糸満市でされている子育て

支援センター(小野市の場合「チャイコム」)の出張広場サービス、子どもの一時預かり保育などきめ細かなサービスは一考の余地があると思われる。

沖縄本島を走っていると、家の屋根に必ずタンクが備えてある。これは沖縄がサンゴの隆起した島で、水が貴重であり、各家庭では生活用水として利用しているためである。農業も同様で、「地下ダム」と呼ばれるダム(国営で造られている)が地下につくられ、そこから水を吸い上げて使用している。農業も随分違っているようだ。



【第2日】

沖縄県名護市

人口：約6万2千人、面積：210.38Km²

《視察項目》

「なごアグリパーク」について

《視察内容》

面接者：議会事務局 荻堂盛行次長、
神谷智子庶務係長

産業部農政畜産課農業計画
係 金城圭主査

沖縄美ら島財団(一般財団法人)
中村裕氏

名護市は本島北部に位置し、海兵隊の軍事施設があり、宜野湾市普天間基地の辺野古移設で話題になっているところである。また、日ハムのキャンプ地、オリオンビール工場などもあり、沖縄で唯一、桜百選にも選ばれている。

今回は現場で視察させていただいた。以下、テーマについて記す。



1. 背景

名護市の農家所得の減少、就農者数の減少、農産物全体の粗生産額の著しい低下等の課題解決を目的に、6次産業化と観光とを融合したアグリパークを整備する。



2. 概要

平成24年度から平成26年度までの3カ年計画で、予算は約15億円である。

平成24年度 構内道路、
駐車場(一般車約260台)、
加工支援施設(837㎡)

平成25年度 ショップ・
トイレ施設(450㎡)

平成26年度 観光農園、
レストラン、エントランス、
回廊

平成25年度までの事業が終了しており、平成26年度分は平成27年度に繰り越しされ、完成は平成28年3月予定とのことである。

3. 期待される事業効果

- ・農家の6次産業化推進
- ・農家所得向上
- ・収容人口の増加

があがっており、年間30万人の観光客誘致を目指す。

《所 感》

この事業は種々施設の管理運営及び観光客誘致等この事業の全てを指定管理者として「沖縄美ら島財団」にまかせている。この財団は近隣に数箇所のレストランとか観光事業を手掛けており、かなりノウハウを持っているようであった。従業員も500人かかえている。因みにこの事業に携わっている従業員は10人である。

この財団がアグリパークを運営していく上で、課題と考えている点が2点あり、小野市も参考になると思われるので、あげておく。

1点目 6次産業化を考える上で問題なのは、流通システムができていないことと、衛生管理ができていないことである。今後農協との関係を深めていく必要があるが(アグリパークを運営していく上で)、この機能が農協は希薄であり、この点の解消方法が問題だと考えている。

2点目 現在、沖縄では10ヶ所の観光施設があり、年間約270万人の観光客がある。アグリパークは11番目の施設となり、目標30万人の観光客誘致を達成させる必要がある、商品の確保などが課題になってくる。

「6次産業化が成功しているところは1次→2次→3次と考えるのではなく、3次

→2次→1次
ばいけない。
ノウハウを生産
う考え方をし
ない。」と財団
ていたが、こ
の方向性はこ
思うところで



と考えなけれ
つまり、販売ノ
に繋げるとい
なければいけ
の方が言われ
れからの農業
れしかないと
ある。

平成27年8月10日

小野市議会議長 前田 光教 様

市民クラブ
高坂 純子

行政視察報告書

先般、実施しました 市民クラブ・公明党 行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成27年7月27日（月）～平成27年7月28日（火）

2 視察メンバー

市民クラブ 幹事長・岡嶋正昭 副幹事長・山中修己
前田光教（議長） 小林千津子（副議長） 高坂純子 久後淳司
平田真実
公明党 幹事長・川名善三 副幹事長・竹内修

3 視察先及び調査内容

- (1) 沖縄県糸満市（人口：57,320人、面積46・64km²）
糸満市子育て支援センター“ぬくぬく”について
- (2) 沖縄県名護市（人口：60,231人、面積：210・38km²）
なごアグリパーク について

4 調査結果

【第1日】

沖縄県糸満市

人口：57,320人、面積46・64km²

《視察項目》

糸満市子育て支援センター“ぬくぬく”について

〈担当説明者〉

福祉部 児童家庭課 課長 金城満

福祉部 児童家庭課児童家庭係 宮里一樹
子育て支援センター長



《視察内容》

○子育て支援センター “ぬくぬく” 設置の背景

① 人口増加傾向

バイパスができた事により、那覇から 10km と近くなり、名護がベットタウン化してきた。因みに埋め立て地である市役所周辺の住宅地価は、坪 21 万円と高騰している。出生率 1・99 である

② 保育園の数が足りない

小学校の横には幼稚園が併設されている[米国の支配下にあったため]その為保育園が少ない。

3歳からは8割程度が保育園を利用しているが、待機児童が全体の1%もある。就学前児童の45%が認可保育園 8・1%が認可外保育園。残りは幼稚園へ通っている。

○子育て支援の基本的なコンセプトとネットワーク

・子育て支援の対象は、糸満市の保育所に入所していない全ての乳幼児と、その親とする。

・児童家庭課が中心になって推進し、拠点を糸満市子育て支援センターぬくぬくに置く。又、保育所や児童センターを合わせて地域子育て支援の場として 位置づけ、各地域で

子育て支援事業を展開していく。

○子育て支援センターの目的

乳幼児を育てているお父さん、お母さん、家族がより楽しく子育てができる情報の交換と育児相談を行い、またお子さんと一緒に楽しく遊べる場所を提供する施設。

- ・お子様やお母さんの友だち作りの場
- ・遊びのヒントが見つかる場
- ・お母さん同士の子育て情報交換の場
- ・子供の成長を確かめる場
- ・育児不安解消の糸口が見つかる場



◎糸満市子育て支援センター “ぬくぬく” 概要

(1) 所在地と環境

糸満市の東北に位置し、県道 7 号線のバス停「座波」から 3~4 分。静かな住宅地に位置し、座波保育所と併設されている。園庭は共有もでき、収穫体験もできる。隣接している市外からも利用しやすい。

(1) 事業内容

育児相談（電話・面談・訪問）訪問事業、育児講座、保育支援、子育てサークルの支援&育成、保育体験、子育て広場（地域の公民館・集会所を利用）、広報活動（ぬくぬくだより）、関連機関との連携、遊具・絵本の利用、その他（身体測定など）、一時預かり事業（病気の子どもも預かるが、一時的に保育士で見られる範囲で料金発生）

(2) 開所日・閉所（利用）時間

(月)～(金) 9:30～12:00 13:30～16:00

(3) 休日

土、日、祝祭日、慰霊の日、年末年始、新年度準備期間

(4) 対象

0歳児～就学前のお子さんがいる方とその家族（市外者も利用可能）

(5) 利用方法

初回時に、登録カードに記入し利用。原則無料だが、講座や行事によっては参加者実費負担。

(6) 事業費 1,600万円（スタッフ5名、人件費900万円）



☆課題

認定こども園は4歳から。幼稚園は5歳から。幼保一元化は4歳から。3歳以上の子どもを持っている75%は保育を要する。というように3歳児の幼児教育をどうするか。が大きな問題である。

保育園の定員は2000弱 将来的には5割り増しにしたい。

《所感》

まず、人口が増えている。出生率が高い。保育園が足りない。待機児童がある。と次々に話を伺い驚いた。地域がら自衛隊の官舎が多く、核家族、外から嫁いでいる人が多い為、約25%のお母さんは日中お友達もいないと聞いた。

そのような背景を考えると、子育て支援センター「ぬくぬく」が、子育てのメンタル部分も大きく手助けをしている事が伺える。



視察に訪れた時は、お母さん達がお菓子作りをされていた。全員で行うのではなく、子守役と調理役に分かれて、協力されていた。

このように特技を生かし、育児講座の講師をお母さんが務める事もあるそうで、謝礼も出るとの事。自立、就業という方向へと進むきっかけにもなると考える。

また、保育園に隣接している事で、情報や連携が取れ、待機児童のお母さんにとって

も安心感が与えられる。認定子ども園は私立へ移行する事になり、昨年 12 月に公募して 2 つの法人が設立に取り組んでいるようだ。少子化対策とは違った悩みがここにあるが、いずれにせよ、子育てしやすい環境の取り組み方法として大変参考になった。

【第 2 日】

沖縄県名護市

人口：60,231 人、面積：210・38 km²

《視察項目》

なごアグリパークについて

＜担当説明者＞

名護市 産業部 農政畜産課農業計画係 主査 金城圭

一般財団法人 沖縄美ら島財団 事業推進部 なごアグリパーク事業副参事 中村裕

《視察内容》



(事 業 概 要)

名護市農産物 6 次産業化支援拠点施設整備事業
(なごアグリパーク)

・沖縄振興一括交付金事業 沖縄振興特別推進市町村交付金 (補助メニュー)

・農家所得の減少、就農者数の減少、農産物全体の粗生産額の著しい低下等の課題解決を目的に、6 次産業化と観光とを融合した施設である。

・農産物等の加工による高付加価値化を目指す加工研究所、販売施設と観光農園、地域農産物が食べられるレストラン等の機能を併せ持ち、名護市の 6 次産業化推進の拠点施設となる。観光客のニーズと地元のニーズをマッチングし、相乗効果を図る。

○なごアグリパーク事業費

平成 24 年度実績額 (672,949 千円) 加工支援施設の建設、駐車場 (260 台) 等の整備

平成 25 年度実績額 (361,268 千円) ショップ、トイレ施設の建設

平成 26 年度実績額 (479,233 千円) レストラン施設、観光農園の建設

※全体完成予定は平成 28 年 3 月末

① 加工支援施設について

- ・インキュベート A 室、B 室（それぞれ使用業者）
- ・加工研究室→これから 6 次産業化に取り組みたい方々を対象に、様々な加工機械を使用して農産物を加工する事ができる。（切る、加熱、温、粉、乾、殺菌、密封、検査）

市民へ 1 時間 500 円で貸出（市街は 1 時間 1,000 円）機械を貸すだけでなく、専門員がノウハウを教える。



② ショップ、（レストラン、観光農園）について



- ・指定管理者「沖縄美ら島財団」のノウハウを活用し、集客力を強化（年間 30 万人）する事で、販路の 1 つとして位置付ける。
- ・生産者の紹介を行う（顔が見える、工程がわかる）
- ・150 品目に絞っている。
- ・名護市の農産加工品を販売。来客者が心地よく使えるトイレを整備する。

《所 感》

「農業を支える街づくりを目指して」というタイトル通り、一括交付金を活用した壮大なものできつつあった。特に 6 次産業には欠かせない加工支援施設の機械類は、高価なだけあって、使い勝手も良く最新のもので、小野市にもあれば十分活用できる！と単純に思った。ただ、農家の方は使い方やメンテナンスが苦手なので、担当の指導者が入る事は有り難いと感じた。特に、農業に興味を持っている若い人たち、I ターンやU ターン等の人、後継者になろうか悩む人たちにとっても、いろんな選択肢ができ夢をもてるのではと思う。

指定管理者「沖縄美ら島財団」は“美ら海水族館”“首里城公園”など管理しており、運営には自信を持たれていた。現在整備中という事もあるが、レストランや観光農園ができ、少し離れたところにある広大な「なごアグリパーク」へどのような導線で集客するか楽しみである。

沖縄美ら島財団 事業推進部なごアグリパーク事業副参事 中村裕 氏のことばより
「やっている事は手段、それをやっていくことが目的、そして幸せになる事が目標」

平成27年8月11日

小野市議会議長
前田光教様

市民クラブ
前田光教

行政視察報告書

先般、実施しました行政視察の結果について下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成27年7月27日（月）～平成27年7月28日（火）

2 視察メンバー（市民クラブ・公明党）



（糸満市子育て支援センターぬくぬく前撮影）

●市民クラブ7名

岡嶋正昭（幹事長）
山中修己（副幹事長）
高坂純子（会計）
久後淳司
平田真実
小林千津子
前田光教

●公明党2名

川名善三（幹事長）
竹内修（副幹事長・会計）

3 視察先及び調査内容

- （1）沖縄県糸満市 「子育て支援センターぬくぬくについて」
（2）沖縄県名護市 「6次産業化の推進・なごアグリパークについて」

4 調査結果

[第1日目沖縄県糸満市]

人口 59,723人 24,003世帯（平成27年3月31日現在）
面積 46.62km² 人口密度 1281.06人/km²

●糸満市の概要等

糸満市は、沖縄本島の最南端に位置し、沿岸部の糸満地区の住民は、「サバニ」と呼ばれるくり舟に乗り南洋各地へ出漁した糸満漁民で知られ、男は追込漁、女は漁行商に従事していた。漁業以外にも、内陸部では畑作を中心とした農業、畜産も盛んである。

また那覇市に近く、近年は人口が増加し、都市化が著しい。戦後出漁海域が沖縄周辺に限られたが、1982年には大型船用の糸満漁港が完成、水産加工工場を立地するなど商工業の一中心として発達している。伝統工芸に、琉球ガラス村に代表されるガラス工芸（琉球ガラス）や漆器がある。

旧暦5月4日の糸満ハーレー（市内では糸満の他に喜屋武、名城地区でも行われる。他市町村はハーリーという。）船競漕の海神祭、旧暦8月15日の大綱引きは五穀豊穰・無病息災を願う行事である。

市の南部の旧三和村一带は沖縄戦最大の激戦地で、ひめゆりの塔、健児の塔などが建立し、その周辺は沖縄戦跡国定公園に指定されている。



日本で唯一、住民を巻き込んだの地上戦が繰り広げられた沖縄、日本軍による組織的な戦闘が終焉を迎えたのは糸満の地であった。今では豊かな緑をたたえる鎮魂の森となり、120を越える慰霊塔や平和祈念資料館などが建立されている。今を生きる我々は、過去に学んで、今を生き、平和への想いを未来へと繋げていかなければならない。

《視察項目》

「子育て支援センターぬくぬくについて」

●説明者及びお世話頂いた方々

- 糸満市議会 事務局 局長「新垣善孝」氏
- 糸満市議会 事務局 議事係「赤嶺優介」氏
- 糸満市子育て支援センター関係「宮里一樹」氏他2名

《視察内容》

●糸満市の現状について

- 糸満市出生率1.99（人口増加傾向・平成30年移行減少見込）
- 保育の待機児童多数
- 子育て支援センター「ぬくぬく」（市直営）
子育て広場「ぽかぽか」（民間委託・NPO法人）の設置

- 小学校区毎に公立幼稚園（10園）
- 私立幼稚園2園
- 糸満市立保育所5園・社会福祉法人15園

●子育て支援センターぬくぬくについて

子育て支援センター「ぬくぬく」は、乳幼児を育てているお父さん、お母さん、ご家族の方がより楽しく子育てができるよう情報の交換と育児相談などを行い、またお子さまと一緒に遊べる場所を提供する施設である。

○5つの場所

- ・お子さまやお母さんなどの友だちづくりの場
- ・遊びのヒントが見つかる場
- ・お母さん同士の子育て情報交換の場
- ・子どもの成長を確かめる場
- ・育児不安解消の糸口が見つかる場

○市立座波保育所に併設（平成15年5月開設）

○職員5名（正職員1名・臨時保育士2名・嘱託支援員2名）

○平成25年度決算額16,146,834円（運営費4,953,501円・
人件費9,138,356円・一時預り事業2,054,977円）

○安心こども基金事業（子育て支援交付金からの移行事業）

○平成26年度は保育緊急確保事業により実施

○主な事業

- ・育児相談事業・訪問事業・育児講座・保育体験・子育てひろば・一時預り事業

○利用基準

- ・0歳から小学就学前の子ども、またその家族が利用可能
- ・出産予定の方の利用
- ・子どものみの利用不可

●子育て広場ぽかぽかについて（NPO法人委託）

○糸満市福祉プラザすこやか館内に設置（平成24年度開始）

○平成25年度決算額5,989,000円（委託料）

○安心こども基金事業（子育て支援交付金からの移行事業）

○平成26年度は保育緊急確保事業により実施

○主な事業

- ・育児相談事業・訪問事業・育児講座・保育体験・子育てひろば

●その他

○待機児童考慮すると2,000名の保育体制要（50%増を目指す）

《所 感》

沖縄と言えば長寿や健康など、全国的にも上位を占めるものがあると認識していますが、出生率もそのひとつであり、今回の視察先である糸満市は1.99であります。

現実として待機児童が多く存在をし、数値目標を立てそのシステムづくりに取り組まれていました。

今回の視察先は、市直営の子育て支援センターで、子育ての居場所づくり（お子さまやお母さんなどの友だちづくりの場・遊びのヒントが見つかる場・お母さん同士の子育て情報交換の場・子どもの成長を確かめる場・育児不安解消の糸口が見つかる場）を実践しておられました。

環境、文化の異なる沖縄の地に移住されてきた方も多く、お母さん方のメンタル面でのサポート体制を体感するとともに、子どものコミュニケーション力の醸成に繋がっているものと感じました。

【第2日目沖縄県名護市】

人口 61,995人 27,870世帯（平成27年5月1日現在）

面積 210.37km² 人口密度 294.70人/km²

●名護市の概要等

名護市は、2000年に行われたG8（主要国首脳会議）の開催地としても話題を集めたところである。中心市街は名護湾に臨み、背後は古生層の山地がそびえる。沖縄本島北部地域の中心都市で国や県の出先機関も多く、商業が活発である。また農業



では、ラン、キクなど花卉のほか果樹・野菜栽培が盛んで、漁業では、カツオの水揚げが多く、タイ・車エビ養殖も行われている。

沖縄自動車道が開通し、海岸は景勝地で海水浴場もある。市街地東方にある名護城址はカンヒザクラの名所で、近くには樹齢300年のヒンプンガジュマルがある。

1979年以来、北海道日本ハムファイターズの春季キャンプが名護市営球場で行われている。

市内には、オリオンビール工場のほか、ヘリオス酒造の本社工場があり、他にも多数の酒造所がある。また、地域活性化を目的として、語呂合わせで「ナゴ」と読める7月5日を「名護の日」とする活動が行われている。

《視察項目》

「6次産業化の推進・なごアグリパークについて」

●説明者及びお世話頂いた方々

○名護市 農政部 農政畜産課 農業計画係 主査「金城圭」氏

○一般社団法人沖縄美ら島財団 事業推進部なごアグリパーク事業
副参事「中村裕」氏

○名護市議会 事務局 次長「萩堂盛行」氏

○名護市議会 事務局 庶務係「神谷智子」氏

《視察内容》

●6次産業の推進・なごアグリパークについて

○アグリショップ「しまちゆらら」について

○農産品の生産者と6次産業化について

○6次産業と観光との融合について

○6次産業化への名護市の関わりについて

○なごアグリパークの今後の展望について

①. 名護市農業の課題

農業粗生産額が1990年頃から比較すると、推定で2010年には約34億円の減少が予測されている。農家所得の低下に伴う農家の大幅な減少が要因とされている。

②. 6次産業化への機運

- ・スイーツコンテストの開催
- ・おでかけ市長室における市民との意見交換
- ・名護市初の「総合化事業計画」認定者の誕生

③. 一括交付金の活用

平成24年度より沖縄振興特別推進交付金（一括交付金）開始

交付額約803億円

沖縄県500億円

市町村303億円・・・内名護市11億円



●事業費

平成24年度約6.9億円 平成25年度約4.6億円 平成26年度約4.5億円

●指定管理制度

一般財団法人沖縄美ら島財団



●まとめ

- ①. なごアグリパークは、農家所得の安定に資する施設として計画された。
- ②. 農産物の高付加価値化施設（加工支援施設・ショップ）と観光施設（レストラン・観光農園）が共存した複合施設である。
- ③. 指定管理者のノウハウを活用し、集客力を強化（年間30万人）することで、本施設を販路のひとつとして位置づける。

《所感》

名護市の農業の持つ課題を解決するために、6次産業化と観光を融合した複合施設として計画が進められているアグリパークですが、現在は途中段階ということで、それらの大きな成果に触れることができませんでした。

しかし、施設の指定管理を一般財団法人沖縄美ら島財団がなされるということで、沖縄県の施設を手広く管理されている財団であるところから、今後の展開を注視していきたいと思っています。

6次産業と観光農園などの素案は、小野市においても熱意をもって構想を実現しようと頑張っておられます。

しかしながら、調整区域の農地を活用しての加工所設置等々、法律での規制から時間がかかっている現状にあります。

名護市は行政主導で計画をスタートさせ、民間委託への流れと理解していますが、民間提案で農業法人自らが管理運営をしようとする、農業委員会等との調整などを経て少しずつ展開（実績重視）となり、結果として現行の法制度において民主導ではハードルが高いかもしれません。

それらから、6次産業化の取り組みは、必要性、可能性、地域性、また、やりがいなどのメンタル面での活力、そして、雇用、経済、継続性の事業展開等をそれぞれの角度で検討し、それぞれの立場で協力体制をもって臨むことが必要とされるものと感じました。

平成 27 年 8 月 10 日

小野市議会議長 前田光教 様

市民クラブ
小林 千津子

行政視察報告書

先般、実施しました 会派・行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成 27 年 7 月 27 日（月）～平成 27 年 7 月 28 日（火）

2 視察メンバー

岡嶋正昭 山中修己 前田光教 高坂純子 小林千津子
久後淳司 平田真実 川名善三 竹内 修

3 視察先及び調査内容

(1) 沖縄県糸満市 (人口：約 5 万 9 千人、面積：46.62Km²)

子育て支援について

「子育て支援センター(ぬくぬく)について」

(2) 沖縄県名護市 (人口：約 6 万 1 千人、面積：210.37 Km²)

農業を考える町づくりについて

「なごアグリパーク事業について」

4 調査結果

【第 1 日】

沖縄県糸満市

人口：約 5 万 9 千人、面積： 46.62 Km²

《視察項目》

子育て支援について

《視察内容》

糸満市子育て支援センター設置状況

市内2ヶ所設置

子育て支援センター「ぬくぬく」(直営)

子育て広場「ぽかぽか」(委託)

子育て支援センター「ぬくぬく」

- 市立保育所(座波保育所)に併設。平成15年5月開設
- 職員 5人(正職員1人、臨時保育士1人 一時預かり1人
子育て支援員(嘱託)2人)
- 平成25年度決算額 16,146,834円
- 主な活動内容
 - 育児相談事業 電話相談、来所による面談、必要に応じ訪問を実施。子育ての悩みや不安軽減をはかる。
 - 訪問事業 子育てに不安を抱える家庭を訪問し、不安の解消や乳幼児の実態把握につとめる。
 - 育児講座 育児に関する講座や保護者のリフレッシュを目的とした講座を定期的開催。
 - 保育交流 市内の公立・認可保育園との定期的な保育交流体験。
地域との交流の場の提供
 - 保育体験 自主活動を通じて、支援センター内で企画した行事への参加。親子保育交流
 - 子育てひろば 地域公民館・集会所を利用して子育て家族を支援。
地域の方々との交流。
 - 一時預かり事業 疾病、出産、介護、冠婚葬祭、その他育児疲れによる
(ぬくぬくのみ) リフレッシュ等による一時預かり保育

子育て広場「ぽかぽか」

糸満市福祉プラザ「すこやか館」内に設置

職員 3名

NPO法人に委託

平成25年度委託料 5,989,000円

主な活動内容

子育て支援センター「ぬくぬく」と同様な事業を実施

《所感》

説明をお聞きした後、現場となる「ぬくぬく」を訪問させていただく。環境は糸満市の東北に位置し、座波保育所に併設、住宅内に建てられています、市内や隣接している市外からも、利用しやすい位置だそうです。

丁度、親子で「おやつ」作りをされている所でした。保育をするというよりも、お母さんの育児不安の解消、親同士の交流の場との感でした。

【第2日】

沖縄県名護市

人口：約 6万1千人、面積：210.37 Km²

《視察項目》

農業を考える町づくりについて

《視察内容》

なごアグリパークにおける取組

農産物6次産業化支援拠点施設整備事業

なごアグリパーク事業とは

名護市の農業の持つ課題を解決するため、6次産業化と観光を融合した複合施設として3年間の事業期間で計画された。現在整備中。

①加工支援施設
②ショップ施設
③レストラン施設
④観光農園施設

駐車場(約260台)

①加工支援施設：農産物の加工(2次部分)を支援。 ②ショップ施設：加工品等の販売(3次部分)を支援。
③④レストラン・観光農園施設：集客施設として①、②施設との相乗効果を担う。使用する食材等は地元農家と連携。

なごアグリパークの背景

① 名護市農業の課題

○現状 名護市の農業粗生産額

1990年 92億円

2010年 58億円（予測値） 34億円の減少

○地域産業活性化推進プロジェクトチーム

農業低迷の原因調査、課題明確化

農業の課題解決への施策提案

農家所得の低下に伴う農家の大幅な減少

○農家所得の安定＝6次産業化の推進

② 6次産業化への機運

○スイーツコンテストの開催

女性団体が主催

新たな特産品を生み出すために開催

応募要件を「名護市の農産物を利用」とした

○「お出かけ市長室」における市民との意見交換

○名護市初の「総合化事業計画」認定者の誕生

③ 一括交付金の活用

○平成24年度より沖縄振興特別交付金が開始

○より自由度の高い交付金として設定され、市町村事業も対象とされた

○平成24年度交付額約803億円＝名護市約11億円

なごアグリパーク事業費

平成24年度 約6.9億円

加工支援施設の建設 通路駐車場の整備

平成25年度 約4.6億円

ショップ、トイレ施設の建設

平成26年度 約4.5億円

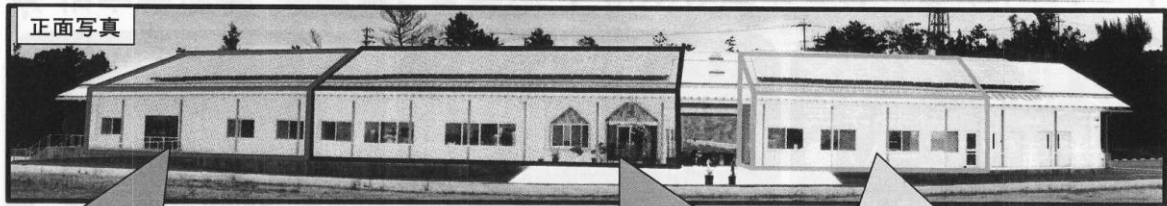
レストラン施設、観光農園施設の建設 ＝総額約16億円

なごアグリパークの進捗

全体完成予定 平成28年3月末

現在完成した加工支援施設の共用を開始して、農産物加工の支援を行っている。

加工支援施設について



インキュベートA室

使用者 **株式会社マキ屋フーズ**

加工品 **野菜** (鳥らきょうなど) **フルーツ** (マンゴー等)

加工 加工

果汁 お菓子・パン

インキュベートB室

使用者 **株式会社クックソニア**

加工品 **野菜・ハーブ** **お肉**

加工 加工

スパイス ベーコン・ハム
ミックス ソーセージ
カレー(レトルト)

加工研究室

これから6次産業化に取り組みたい方々を対象に、様々な加工機械を使用して農産物を加工することが出来る。

良い機械そろってます!

加工研究室で出来ること
肉・魚 粉 切る 加熱 パン・お菓子
果実 粉 粉 粉 調味料
野菜 粉 粉 粉 レトルト食品
穀物 粉 粉 粉 アイデアを形に!

市民向けちらし

果樹

畜産品

研究施設

- 加工研究施設では、市内会員＝一時間 500 円
市外会員＝ 〃 1,000 円で使用ができる

まとめ

1. なごアグリパークは農家所得の安定に資する施設として計画された。
2. 農産物の高付加施設と観光施設が共存した複合施設である。
3. 指定管理者のノウハウを活用し、集客力を強化することで本施設を販路の一つとして位置づける。

《所感》

広大な土地に、大変立派な行き届いた施設が出来ていると感じました。完成は28年3月末とのことで、一部しか運用されていないようでした。6次産業化は、専門的な知識や技術、又資金が必要ですが、ここでは何か始めようと計画する農家や、団体の意欲を盛り上げていく機運がありました。加工研究室を利用して、アイデアを形にしたい人が気軽に安価で、研究が出来ると考えます。私も6次産業に興味がありますが、機材が高く加工品量産にはなかなか手を出せないのが現状です。完成が楽しみです。

平成27年8月5日

小野市議会議長

様

市民クラブ

平田 真実

行政視察報告書

先般、実施しました 市民クラブ 行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成27年7月27日（月）～平成27年7月28日（火）

2 視察メンバー

岡嶋正昭議員、山中修己議員、前田光教議員、小林千津子議員、高坂純子議員、久後淳司議員、川名善三議員、竹内修議員、平田真実

3 視察先及び調査内容

(1) 沖縄県糸満市（人口： 約 6万人、面積： 46.63 Km²）

子育て支援センターについて

子育て支援策として設置している、子育て支援センター「ぬくぬく」において、設置した背景と、取り組み内容、効果と課題を調査する。

(2) 沖縄県名護市（人口： 約 6万2千人、面積： 210.37 Km²）

6次産業化について

6次産業化支援拠点施設なごアグリパーク事業を通し、6次産業化における背景と、取り組み内容、効果と課題を調査する。

4 調査結果

【第1日】

沖縄県糸満市

人口 約6万人 面積 46.63 Km²

《視察項目》

子育て支援センターについて

《視察内容》

糸満市では、子育て支援センターを市内に2ヶ所設置している。

- ・子育て支援センター「ぬくぬく」(直営)
- ・子育て広場「ぽかぽか」(委託)

今回は、主に子育て支援センター「ぬくぬく」について視察した。

子育て支援センター「ぬくぬく」

- ・平成15年より市立保育所に併設。
- ・職員5名

《主な活動内容》

- ・育児相談事業…育児相談では、電話や面談、訪問により、子育ての悩みや不安の軽減を図り、相談内容によっては関係機関と連携をとりながら対処していく。
- ・訪問事業…支援センターの施設に来ることが出来ずに問題を抱えている家族へ、職員が家庭に出向き、子育ての悩みや不安の軽減、乳幼児の実態の調査把握に努める。
- ・育児講座…毎月2回予約制で、地域の子育て家庭を対象に育児に関する講座やお母さん方のリフレッシュを目的とした講座を定期的に行い、育児不安の解消、親同士の交流の場の提供を行う。
- ・保育交流…市内の保育所・保育園との定期的な交流
- ・保育体験…支援センター内で企画した行事への参加などを通して交流の場を提供など。
- ・子育てひろば…地域の公民館・集会所を利用し、子育て家庭を支援するとともに地域の人々の交流の場を提供。
- ・一時預かり事業…親の疾病・出産・看護・介護・冠婚葬祭・その他育児疲れの理由による一時預かり保育。

0歳児から就学前のお子さんがある方とその家族が対象で、最初に一度登録をすれば、月曜日から金曜日の午前9時30分～12時、13時30分～16時の間で、市内外問わず原則無料で利用できる。



《所 感》

沖縄県では低所得という理由などから、共働き家庭が大半を占め、待機児童を抱えている状態であることや、沖縄県に嫁ぎ、身寄りがなく、核家族化の傾向にあることから、社会から孤立する親や家庭で不安を抱えている人が、どのようにして繋がる事が出来るかといった観点からこの事業に取り組まれていた。

特に印象深かった点が2点あり、1点目は、育児講座ではお母さん同士で講師になるなどの取り組みをされている点である。ヨガやフラダンスなど、得意な事を活かした講座をすることで、謝金も発生する。これらは交流の場になる上、母親の向上欲求にも繋がっていくのではと感じた。

2点目は、施設内にキッチンが備え付けられている点である。小野市でも公民館などではキッチンが備え付けられているが、子どもが主体の施設の中にキッチンがあるという事は、母親の活動にも大きく変化が生まれてくるのではないかと感じる。公民館などで子どもと共に料理をするならば、公民館は幅広い年代の方が共に利用し、日々サークル活動などもされている為、他の利用者さんへの迷惑を考えたり、設備を壊してしまわないか気にしたりする事が多い。また、赤ちゃんがハイハイをしても安心できる状態にあるかということ、考えてしまう公民館もあるように感じる。実際に「ぬくぬく」に見学に伺った際、母親たちや子どもが一緒になっておやつ作りを楽しんでいるその様子は、“少し大きな友人宅”で親子共々談笑するよう私の目に映り、子どもだけでなく親自身もリフレッシュできる、そして交流を深める事ができる施設になっていると感じた。

出産後に社会から孤立するよう感じるという事や、家庭で不安を抱える事は、沖縄県に限らず、兵庫県や小野市に於いても同じである。子どもを育てやすいという観点ももちろん大切だが、親自身のケアに繋がるような取り組みも充実させていかなければならない。

【第2日】

沖縄県名護市

人口 6万2千人 面積 210.37 Km²

《視察項目》

6次産業化について

《視察内容》

なごアグリパーク事業

- ・加工支援施設…農産物の加工を支援。
- ・ショップ施設…加工品等の販売を支援。
- ・レストラン、観光農園施設…集客施設として、加工支援施設とショップ施設との相乗効果を担う。使用する食材等は地元農家と連携。

名護市では、農家の所得低下に伴い農家が年々大幅に減少しており、販路拡大や高付加価値化を進め、6次産業化を推進することで農業低迷を解決し、農業を支える街づくりを目指している。

【名護市の現状】

過去最高額である、平成3年度の農業粗生産額95億円から、平成14年度には55億円と大幅に減少した。北部振興策事業等の活用により、農家支援を実施してきた結果、平成18年度には農業粗生産額は約64億円まで回復し、現在も60億円程度で推移しているものの、下げ止まり傾向にある。

【名護市の課題】

天災や、市場価格の変動などによる不安定な農業所得も要因の一つとなり、農家の高齢化や後継者不足が深刻化している。6次産業化により収入を安定させたいという声はあるが、新商品開発や販路拡大に投資するだけの経営体力がない。

平成24年度より沖縄振興特別推進交付金が開始され、名護市は約11億円の交付額を元に、なごアグリパーク事業費総額約16億円の6次産業化支援拠点施設を整備している。全体完成予定は平成28年3月末で、現在は加工支援施設と、ショップ施設（アグリショップしまちゅらら）がオープンしている。

加工支援施設では、インキュベートA室を株式会社マキ屋フーズ、インキュベートB室を株式会社クックソニアが現在使用しており、加工研究室ではこれから6次産業化に取り組みたい方を対象に、様々な加工機械を使用して農産物を加工することが出来る。事前予約が必要で、利用料は市民が1時間500円、市外の方が1時間1000円となっている。

なごアグリパークでは、名護市産の農産加工品を販売するショップ、名護市産の農畜海産物を用いた創作鍋料理を提供する「健康・美容・長寿」をテーマとしたレストラン、展示・体験・生産エリア等で沖縄植物を感じられ、ハーブや島野菜などを栽培し、レストランへ食材を一部提供する観光農園を、指定管理者である沖縄美ら島財団の持つ豊富なノウハウを生かし、6次産業と観光との融合による地域の活性化を目指し、年間目標集客数を30万人としている。



左の写真は、インキュベートB室を使用している、株式会社クックソニアが運営している店舗の一部である。店内は、流行を取り入れた内装になっており、自社の商品や採れたて野菜などを販売するスペース、カフェスペースある。

《所感》

6次産業化と観光の融合により、農家の経営安定や、農家所得の向上、就農人口の増加を目指すということは、名護市であるからこそ出来る点であるとは感じたが、小野市に於いても、6次産業化は今後見据える課題に繋がっていくのではと考えている。

経営体力に乏しい農家等は、後継者の不足の問題も同時に抱えている場合が多く、職を求めて地域を離れる若者などの人口流出・地域の過疎化にも繋がる為、食品加工や流通・販売、高付加価値化により、現在農業に就農している・いないにかかわらず、農業を見つめなおす機会になると感じた。

個人的な印象として、沖縄ではIターンの若者が、県外からの手法を用い、沖縄の

風土を活かした店舗を運営するなどしている印象が強かった為、株式会社クックソニアの方に質問したところ、クックソニアの代表もやはり I ターンの方であった。I ターン理由は様々であると思うが、少なくとも“沖縄”自体にも人を惹きつける魅力があることは容易に考えられる。それらを小野市に置き換えて考えることは難しいが、小野市でも市外・県外の方が魅力を感じるような地域づくりをし、内外から活性化させていくことで、新しい取り組みが生まれたり、良い循環が出来たりするのではないかと考える。クックソニアの方のお話によると、I ターン者も多いが最近では一度県外に出た沖縄出身者が再び地元に戻り、県外で得た技術を活かした店舗運営や会社経営をされる方が増えており、それぞれが協力し合って地域の為に取組まれているようであった。クックソニアでは、農業のイメージを一新させるようなデザインの店舗も運営し、観光客に対してだけでなく、地域の農業をも牽引するような力強さを感じた。

この6次産業化に関しても、様々な過程が生まれることで、農家の経営安定だけでなく、結果、新たな雇用が創出されるなど、若者の農業に対する考えを見直す機会になるのではないかと感じた。またそれらの支援をするために、行政が施設整備を行うことは、夢のような取り組みである。

小野市では、同じように後継者・就労者が不足している業界が様々あるが、後継者が不足する職業で新たな雇用が生まれる為に、どのように行政が介入するかということも深く考えていきたい項目である。名護市のように施設整備で6次産業化を支援することは到底容易ではないが、施設だけでなく、様々な視点から6次産業化を支援する取り組みについて考えていきたい。

平成27年8月5日

小野市議会議長 様

市民クラブ
久後 淳 司

行政視察報告書

先般、実施しました 会派合同行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成27年7月27日（月）～27年7月28日（火）

2 視察メンバー

岡嶋正昭・山中修己・前田光教・小林千津子・高坂純子・平田真実
・久後淳司・川名善三・竹内修

3 視察先及び調査内容

(1) 沖縄県糸満市（人口：約2万4千人、面積：46.62㎡）
子育て支援について

(2) 沖縄県名護市（人口：約6万1千人、面積：210.37㎡）
農業を支える街づくりについて

4 調査結果

【第1日】

沖縄県糸満市

人口：約2万4千人、面積：46.62㎡

≪視察項目≫

子育て支援センターぬくぬくについて

《視察内容》

＜開設経緯＞

- ・出生率は1.99と高いが待機児童も多い
- ・一人親の割合も高い傾向にある



＜活動内容＞

- ・乳幼児を育てているお父さん、お母さん、ご家族の方がより楽しく子育てができるよう情報の交換と育児相談などを行い、またお子さまと一緒に遊べる場所を提供する施設として平成15年5月に開設
- ・認可保育所や教育委員会、幼稚園や行政とも情報交換し協同している
- ・育児相談事業：電話相談、来所による面談、必要に応じ訪問を実施。子育ての悩みや不安軽減を図る
- ・訪問事業：子育てに不安を抱える家庭を訪問し、不安の解消や乳幼児の実態把握に努める
- ・育児講座：育児に関する講座や保護者のリフレッシュを目的とした講座を定期的で開催
- ・保育交流：市内の公立・認可保育園との定期的な保育交流体験。地域との交流の場の提供
- ・保育体験：自主活動を通じて、支援センター内で企画した行事への参加。親子保育交流
- ・子育てひろば：地域公民館・集会所を利用して子育て家族を支援。地域の方々との交流
- ・一時預かり事業：疾病、出産、看護、介護、冠婚葬祭、その他育児疲れによるリフレッシュ等による一時預かり保育

<今後の展望>

- ・市の中心部だけでなく農村集落にも1施設開設する
- ・公立だけでなく私立も含め検討し開設していく

《所 感》

出生率は県内でも最も高く人口も増加している糸満市ですが、反面ひとり親世帯の数も多く就学前の待機児童の数も多い傾向にありました。そういった打開策のひとつとして、行政主導により子育て支援を目的に市立保育所に併設する形で設置されています。「ぬくぬく」は、育児に対して様々な悩みを抱えている親にとっても、また子供の健やかな成長にとっても非常に有効な施設であると感じました。単なる相談窓口としてだけではなく、他のNPOや保育所・幼稚園や小学校に至るまで細部にわたり連携されており、緊密な情報交換や協同しての子育て支援事業など良い連携体制を築かれていました。小野市にとっても非常に参考になる体制であると考えます。

【第2日】

沖縄県名護市

人口：約6万1千人、面積：210.37㎡

《視察項目》

なごアグリパークにおける取組みについて
(農産物6次産業化支援拠点施設整備事業)

《視察内容》

<開設経緯>

- ・名護市農業の課題（離農による農業生産額の減少）
- ・6次産業化への機運
- ・一括交付金の活用
- ・観光との融合

<活動内容>

- ・農地利用の最適化⇒農家所得の安定
- ・販路拡大、高付加価値⇒6次産業化の推進
- ・女性市民団体が主催し、新たな特産品を生み出すためスイーツコンテストの開催
- ・「おでかけ市長室」における市民との意見交換（6次産業に取り組みたい女性農業者団体との意見交換など）
- ・名護市初の「総合化事業計画」認定者の誕生（（農）クックソニア）

- ・平成24年度より市町村事業も対象とした一括交付金をうまく活用した
- ・農業に対する加工支援施設を設け市民の方々に活用してもらっている
- ・レストランも併設し名護市の特産を利用した創作料理を提供
- ・特産品を並べたショップを運営し販路を開拓

<今後の展望>

- ・農家所得の安定を目指していきたい
- ・観光としての誘致も推進していきたい
- ・農産物に高付加価値をつけ、さらに観光施設と融合することで複合施設として広く認知してもらい来場者を増加させていく
- ・指定管理者のノウハウを活用し、集客力を強化することで販路拡大を目指す



《所 感》

施設内の販売所においては、陳列棚に各生産農家の方々ごとに分けられており、PRポイントを持って商品紹介そして販売されていて、思わず手が伸びるような仕組みになっていました。こだわりや生産背景も見え非常に見やすかったです。なごアグリパークは全面オープンはしていませんでしたが、2018年度オープンの際には、地域の賑わいづくりの拠点として、また農業生産をされる方々のサポーターとして繁栄されることと思います。小野市にとってもこの加工施設の一部分でもあれば農家の方々の企画やアイデア、また販路開拓に繋がるのではないかと感じました。

平成27年8月10日

小野市議会議長 前田光教 様

公明党
川名善三

行政視察報告書

先般、実施しました会派合同行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成27年7月27日(月)～平成27年7月28日(火)

2 視察メンバー

川名善三・竹内修(市民クラブ7名と合同)

3 視察先及び調査内容

(1) 沖縄県糸満市(人口:約5万9千人、面積:46.64Km²)

糸満市子育て支援センター「ぬくぬく」について

(2) 沖縄県名護市(人口:約6万1千人、面積:210.38Km²)

なごアグリパークについて



[糸満市役所]



[なごアグリパーク]

4 調査結果

【第1日】

沖縄県糸満市

(人口：約5万9千人、面積：46.64K^m²)

《視察項目》

糸満市子育て支援センター「ぬくぬく」
について

《視察内容》

1) 施設概要

- ・平成15年5月開設
(市立波保育所に併設)
- ・開所日 (利用時間)・・・月曜日～金曜日
午前9：30～12：00
午後1：30～ 4：00
- ・対象・・・0歳児～就学前の子供と保護者
及びその家族 (市外者も可)
- ・利用方法・・・登録カード記載 (原則無料)
- ・職員体制・・・5名 (正1名、臨時保育士1名、
同 (一時預かり) 1名、支援員 (嘱託) 2名)



2) 主な事業内容

事業名	事業内容
育児相談事業	<ul style="list-style-type: none"> ・電話相談、来所による面談等、必要に応じ訪問も実施 ・子育ての悩みや不安解消を図る。
訪問事業	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関からの要請などで子育てに不安を抱える家庭を訪問、子育ての悩みや不安の軽減、実態の調査把握
育児講座	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て家庭を対象 ・育児講座や保護者のリフレッシュを目的の講座
保育交流	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の保育所と定期的な保育交流の実施 ・地域との交流の場の提供
保育体験	<ul style="list-style-type: none"> ・自主活動と通じたセンター内で企画行事に参加 ・月1回の屋外保育
子育てひろば	地域公民館、集会所を利用した地域交流
一時預かり事業 (有料)	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病、出産、介護、冠婚葬祭など、その他育児疲れによるリフレッシュ等による一時預かり保育の実施 ・関係機関からの子育て困難な利用の受け入れ
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ利用時間外の受け入れ、電話相談の支援 ・身体測定をいつでもできるように設置 ・公立保育所が実施している「子育て応援デー」の情報提供

〈所 感〉

市立の保育所に併設する形で設置されているこの施設は、規模的にはチャイコムに比べると小規模ではあるが、実施内容においては、その分利用者間の交流や施設利用の柔軟性においては利用者本位の非常に利用しやすい施設になっている。

また、疾病や冠婚葬祭、また育児疲れの解消などへの対応として一時預かり事業が実施されており、一部保育所の機能も持たせるなど、利用者への細かい対応がなされていた。

「小1プロブレム」への方策として保・幼・小の連携を目指すとのことであったが、今後の取組みを期待したい。



【第2日】

沖縄県名護市

(人口：約6万1千人、面積：210.38K㎡)



《視察項目》

なごアグリパークについて

[加工支援施設及びインキュベート施設]



[シ ョ ッ プ]



《視察内容》

1) 取組の経緯

名護市での農業所得の減少、就農者数の減少、農産物の粗生産額の著しい低下などの課題解決を目的として、平成24年度から地元農産物等の加工による高付加価値化を目的とした6次産業化推進と観光の拠点施設として、「なごアグリパーク」を設置に着手。全体の完成は平成28年3月の予定。



2) 施設概要

全体の施設完成後は、加工支援施設や、観光農園、地元食材を使った料理を提供するレストラン等の機能を併せ持つ複合施設として機能する施設となる予定。

現在は、それぞれ農畜産物加工用機械を設置しているインキュベート(新規事業支援)施設(原則3年間貸与)と、一時

的な利用が可能な加工研究室及びショップから構成され、加工研究室は6次産業化を目指す農家などが加工品を開発し、試作品を作ることができ、また、インキュベート施設では、6次産業化に取り組む事業者の自立促進を目指し、地元食材を使用し施設・機械(食肉加工用、ジャム・菓子加工用の2室)を安価で貸与する。今後は観光農園で栽培した食材を含め地元食材や加工支援施設で開発した商品等を、本年4月完成したショップ(アグリショップしまちゅらら)やレストラン(28年度完成予定)で提供、各施設の集客の相乗効果を図り、地元食材の消費拡大を目指している。



財源については、沖縄振興特別推進交付金（一括交付金）を活用、平成24年度～平成26年度において総額約16億円とされている。



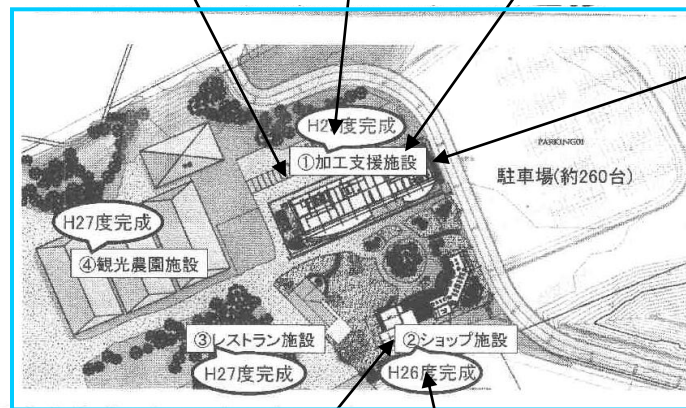
〔施設内容〕



〔インキュベート施設〕



〔加工支援施設内部〕



〔アグリショップショップしまちゅらら〕



〔ショップ店内〕



〔ショップのトイレ〕



《所 感》

自然環境に恵まれ一般的には農業の盛んな地域と思われている地域と考えていたが、今日においては、不安定な農業所得などから、農業就業者の高齢化や後継者不足の深刻化などの課題は例外ではない。その打開策としての6次産業化へ取り組んでいく為には、資金力や販売力に乏しい農業者にとっては、行政の積極的な支援は不可欠である。

名護市では、この施設を様々なノウハウを持つ「沖縄ちゅら海財団」を指定管理者として業務委託しており、販路開拓にも積極的に取り組んでいる。現在は未完成の施設であるが、来年のフルオープンが期待される。

平成27年8月10日

小野市議会議長 前田光教 様

公明党
竹内 修

行政視察報告書

先般、実施しました 公明党・市民クラブ合同視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成 27 年 7月27日(月)～平成 27 年 7月28日(火)

2 視察メンバー

公明党

川名 善三・竹内 修

市民クラブ

岡嶋 正昭・前田 光教・山中 修己・小林 千津子・高坂 純子・久後 淳司・

平田 真実

3 視察先及び調査内容

(1) 沖縄県糸満市(人口:約5万7千人、面積:46.64Km²)

子育て支援センターぬくぬく

子育て広場「ぽかぽか」について

(2) 沖縄県名護市(人口:約6万1千人、面積:210.38Km²)

名護市農産物6次産業化支援拠点施設整備事業「なごアグリパーク」について

4 調査結果

【第1日】

沖縄県糸満市

人口約5万7000人 面積:46.64Km²

《視察項目》

- 糸満市子育て支援センター設置状況について
 - 市内2か所設置
 - 子育て支援センター「ぬくぬく」(直営)
 - 子育て広場「ぼかぼか」(委託)

《視察内容》

{1}事業の目的

地域子育てを支援する基盤の形成を図るため、各保育所で連携を取り、子育て家庭(これから子育てを始める家庭を含む)の保護者や小学校就学前の児童等(以下「子育て家庭」という。)に対する育児を支援する事業(以下「事業」という。)を実施することにより、地域の子育て家庭に対する育児支援を行うことを目的とする。

《事業概要》

- 市立保育所(座波保育所)に併設。平成15年5月開設。
- 職員5名(正職員1人、臨時保育士1人(一時預かり)子育て支援員(嘱託)2人)
- 平成25年度決算額 16,146,834円(運営費4,953,501円 人件費9,138,356円 一時預かり事業2,054,977円)
- ※安心こども基金事業(子育て支援交付金からの移行事業)
- ※平成26年度は「保育緊急確保事業」により実施。

《事業内容》

- 育児相談・・・・・・相談室を設け、電話による相談、来所による面談、必要に(電話・面談・訪問) 応じ訪問を行い、子育ての悩みや不安の軽減を図っていく。
また相談内容によっては、関係機関と連携を取りながら対処していく。
電話・・・・月～金 随時 9:00～5:00
面談・・・・育児相談日 (予約制)
第2火曜日 1:30～4:00
- ・20認可保育所・保育園の相談事業情報の提供。
- 訪問事業・・・・・・関係機関からの要請や電話を通じて、支援センターの施設に来ることができずに問題を抱えている家庭へ、担当職員が家庭へ出向き、子育ての悩みや不安の軽減、乳幼児の実態の調査把握に努める。
- 育児講座・・・・・・地域の子育て家庭を対象に育児に関する講座やお母さん方のリフレッシュを目的とした講座を定期的に行い、育児不安の解消、親同士の交流の場の提供を行う。
毎週2回(水曜日) 予約制
- 保育交流・・・・・・市内20認可保育所・保育園との定期的な保育交流体験を通して直接的育児情報の提供。また、地域との交流の場の提供を行う。

- ・母体である座波保育所は、第2第3金曜日（午前10時～10時45分）に暮らす交流を実施。

子育てサークルの・・・サークル活動結成希望者への助言や場所・情報の提供。
支援・育成

保育体験・・・・・・・・自主活動を通して、支援センター内で企画した行事への参加や日々の保育的な遊びを通して交流の場を提供。

- ・親子で保育交流の参加
- ・子育て家庭のニーズに対応しながら、地域の保育所・保育園の見学（育児講座にて年間2ヶ所を見学）
- ・月1回の園外保育“公園で遊ぼう（お弁当）”

子育て広場・・・・・・・・地域の公民館・集会所を利用して子育て家庭を支援するとともに地域の人々の交流の場を提供。

①毎週月曜日・・・賀数宿舎集会所

10:00～12:00（親子交流）

毎月第2月曜日（ほっとタイム）

14:00～16:00

②毎週火曜日・・・大川公民館

14:00～16:00

③毎週木曜日・・・ふくらしや館

9:30～12:00（親子交流）

午後は1歳6か月検診・3歳児検診の見守り

検診日以外の午後13:30～16時は親子交流を実施

④毎週金曜日・・・ふくらしや館（ぴよぴよタイム）

9:30～12:00

13:00～16:00

広報活動・・・・・・・・毎月『ぬくぬくだより』を発行 市役所ホームページに掲載。

- ・公共機関、乳幼児健診会場等でパンフレット配布
- ・市の広報紙に行事日程を掲載
- ・関係機関にぬくぬくだよりを掲示

公市立保育所（20か所） 児童館（2ヶ所） 病院（5ヶ所）

児童家庭課 ふくらしや館 すこやか館（ぽかぽか、ぐんぐん、いっぽ） 嘉数宿舎 大川公民館

関係機関との

連携・・・・・・・・子育て関係機関との情報交換

- ・ネットワークの連携推進
- ・健康推進課との連携

※1歳半検診・3歳児検診への見守り応援

遊具・絵本の活用・・・遊具、育児書、絵本等の利用、読み聞かせを通して共感の場を提供

その他・・・・・・・・・・身体測定をいつでもできる様に設置する

- ・必要に応じて利用時間外（室内外）の受け入れや相談の支援
- ・公立保育所が実施している「子育て応援デー」の情報提供をする

一時預かり事業・・・・・・・・疾病、出産、看護、介護、冠婚葬祭、その他（育児疲れ）の理由による一時預かり保育を行う

- ・関係機関から子育て困難な理由の受け入れ

《子育て広場ぽかぽか》

- ・糸満市福祉プラザ「すこやか館」内に設置。平成24年度より同施設内で事業実施
- ・NPO法人に委託
- ・平成25年度決算額5,989,000円（委託料）
 - ※安心こども基金事業（子育て支援交付金からの移行事業）
 - ※平成26年度は「保育緊急確保事業」により実施
- ・主な活動内容
 - 子育て支援センター「ぬくぬく」と同様な事業を実施

《所 感》

糸満市の位置を見てみると、那覇空港の豊見城市のさらに南、沖縄県の最南端に位置している。今回の視察は、子育ての環境も気になるので状況を伺ってみると、やはり現代の持つ悩みが聞こえてきました。

核家族化に代表される若い世代の孤立化と、離婚等に関するひとり親家庭の増加です。更にこの地域では那覇市を代表される大都会から近くベットタウン化して順調に人口が増加しているとのことでした。

人口は増えても地域とのつながりが無く、また世代間の連携も薄いとのこと、育児に関して悩みが多く孤立化していく傾向があるらしいのです。

状況的には、待機児童も多く現状の受け入れ施設は数が足りないということでした。背景にはそのことが大きな問題としてあって、このような受け皿ができています。施設も見学させて頂いたのですが、そのような気配はみじんもなく、子どもさんもお母さんたちも仲良くされていて昔からの知り合いのようでしたが、事業の目的を見る限り「押して知るべし」でした。

事業的には、よく手が入れられていて、参加されていない保護者に啓発のパンフレットが入っていました。なかなかこれをしようと思えば時間が無かったり、恥ずかしかったりで難しいのですが、NPOを絡めたり、SNS、パソコン、タブレット等で登録を呼びかけたりしています。またそのほかにもママサポーター、アズママ等先進的な取り組みもされている。今後どうなっていくのか先が楽しみな研修でした。

【第2日】

沖縄県名護市

人口約6万1,000人 面積210.38km²

《視察項目》

名護市農産物6次産業化支援拠点施設整備事業（なごアグリパーク）について

《視察内容》

名護市の農家所得の減少、就農者数の減少、農産物全体の粗生産額に著しい低下等の課題解決を目的に、6次産業化と観光とを融合したアグリパークを整備する。

なごアグリパークは、農産物等の加工による高付加価値化を目指す加工研究施設、販売施設と観光農園、地域農産物等が食べられるレストラン等の機能を併せ持ち、名護市の6次産業化推進の拠点施設となる。拠点施設として整備することにより、観光客のニーズ（ここでしか食べられない物、地元の食材を使った商品、おみやげ等）と地元のシーズ（地元の農産物、それらを使った新しい商品等）をマッチングし、相乗効果を図る。

○平成24年度概要（実績額672,949,000円）

- ・加工支援施設費用
- ・道路・駐車場等の共用部分の整備

○平成25年度概要（実績額361,268,000円）

- ・ショップ施設整備
- ・ショップ施設周辺環境整備

○平成26年度概要（予算額479,233,000円）

- ・観光農園、レストラン、エントランス、回廊整備
- ・施設周辺整備

※ 補助メニュー

沖縄振興一括交付金事業 沖縄振興特別推進市町村交付金

《事業の必要性》

名護市は緑豊かな自然に囲まれた沖縄本島北部（やんばる）地域に位置し、本島内では最大の面積を有している。また、古くから農業が盛んな地域であり、沖縄県からゴーヤー、カボチャ、シークワサー、タンカン等の拠点産地認定を受けている。しかし、農業粗生産額は過去最高額を記録した平成3年度の95億円から平成14年度には55億円へと大幅に減少した。その現状を受け、名護市では北部振興策事業等の活用により農家の支援を実施してきた。その結果、平成18年度には農業粗生産額は約64億円まで回復し、現在も60億円程度で推移しているものの、粗生産額は下げ止まりの傾向にある。

《課題》

名護市の就農者数は減少傾向にあり、農家の高齢化や後継者不足は深刻な問題となっている。その要因の一つとして、不安定な農業所得が挙げられる。農家は、台風被害、市場価格の変動等により、安定した収入を得難い状況となっている。地域の農家からは、新商品開発、販路拡大等の6次産業化により収入を安定させたいという声はあるが、それに投資するだけの経営体力がない。これらの課題を解決すべく、6次産業化支援施設としてアグリパークを整備したい。農産物の高付加価値化を図る施設と、誘客を担う観光農園を同時に整備することにより、名護市の農家の経営安定、農家所得の向上を促し、就農人口の増加につなげていく。

《期待される事業効果》

- ・農家の6次産業化推進
- ・農家所得向上
- ・就農人口の増加

○事業後の運営見通し及び実施体制

観光客誘致のノウハウ、種々の施設管理運営能力を有する企業による指定管理を予定しており、全施設整備後には年間30万人の誘客を目指す。

○既存施策等との関連

類似した補助事業として農林水産省の6次産業化推進整備事業はあるが、その事業の対象は民間となっており、地方自治体は補助対象となっていない。本事業は施設整備するだけの経営体力の乏しい農家等の6次産業化を支援し、それに伴う農家所得の向上等を目指すものであり、前述した農林水産省の補助事業の目的である「6次産業の推進」という方向性としては一致するものの、補助対象、補助上限額等の違いにより、既存事業では実施が困難であるため、沖縄振興特別推進交付金事業により実施したい。

○上位計画（沖縄21世紀ビジョン基本計画、第4次名護市総合計画、市長政策等）での位置づけ

沖縄21世紀ビジョンには下記のとおり記されており、当該事業の目的はビジョンの目指す方向と一致している。

ビジョン抜粋

4 将来像実現に向けた推進戦略

(3) 「希望と活力にあふれる豊かな島」推進戦略

〈2〉持続的発展の基礎となる地域産業の振興

- 我が国唯一の亜熱帯性気候を生かした農林水産業の振興に向け、おきなわブランドの確立を図ると共に、食品加工、流通・販売、観光等が

連携・融合した新たな付加価値の創出を図る。

○島しょ圏沖縄が持続的に発展するために、それぞれの地域や島々に深く根ざしている農林水産業や製造業、建設業、医療・福祉・介護など地域産業を支え、振興に取り組む。

○優位性のある地域資源を持続的に活用するための戦略的な地域密着産業の育成・支援を図る。

第4次名護市総合計画(H21～H30年度)の施策の目指す方向として「生産環境や特産品を生かした農業の振興に向けて、時代のニーズに応じた農業の持つ多様な可能性を生かした活動を促進する。」としており、市長政策の中でも「元気で強い農林畜産業と活力ある漁業を振興」が掲げられている。

《所 感》

アグリパーク現地で説明を受けました。そこは、小高い山の中腹に整備された一角で、野球グラウンド4個ほどのエリアでしたが、さすがに足掛け4年をかけて整備されている・・・という感じでした。向き合った二つの長細い工場棟があるという感じで、行ったり来たりできる距離で、もちろん建物は最新式の綺麗なデパートのような売り場を擁したものでした。二つの建物の端には、観光客も沢山来れる様に、大きな駐車場が整備してあり、さながら『道の駅』の3倍といった感じでしょうか、とてもスケールの大きさを感じました。

特に、羨ましいのが6次産業化の特産品を作るのに、沖縄の特別交付金を使えるということです。なかなかこういう事業にお金が使えないのが実態なので、その差を感じました。現状は、まだ動き出していないので、農業者の所得に増加も、就農人口もこれからということですが、ぜひとも成功していただいて、各自治体の起爆剤となって頂きたいと思います。

民間にとっても、ここに整備された色々な機械により、アイデアを実体化して民間の方にも実利をあげて頂きたいと思いました。